

2016 高原沼情報

NO. 1
第7号 (9月22日)
発行: ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00~13:00、下山時間15:00までです。
なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで入山届けを記入し、レクチャーを受けてから入山してください。
【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



台風により、甚大な被害を被った町道高原温泉線も復旧し、いよいよ22日からマイカー規制が始まります。
沼コースも被害に合い、ヤンベタツ川(川)の橋が流され、右コースも歩道が崩壊しました。
ヤンベタツ川(川)の橋の復旧工事は終了しました。

マイカー規制時の沼コースについて(9月22日~25日)
コースはヒグマの出没状況にもよりますが、基本的には緑沼経由、空沼往復になります。

空沼往復通行可能時間

大雪レイクサイト	9:30乗車まで
ヒグマ情報センター	10:00入山まで
高原沼	12:00通過まで
空沼	12:30高原沼経由下山開始

9月26日から10月7日までは高原沼往復のコースになります。

沼コースは10月7日が最終日になります。以降、コースは閉鎖になります。ご了承ください。



①復旧されたヤンベタツ川(川)の橋ですが、幅が狭いので譲り合って通行してください。(9月18日)



②ショウコノ沢(川)の橋のたもととも増水により、洗掘されました。従来の歩道脇に巻き道を作りました。(9月8日)



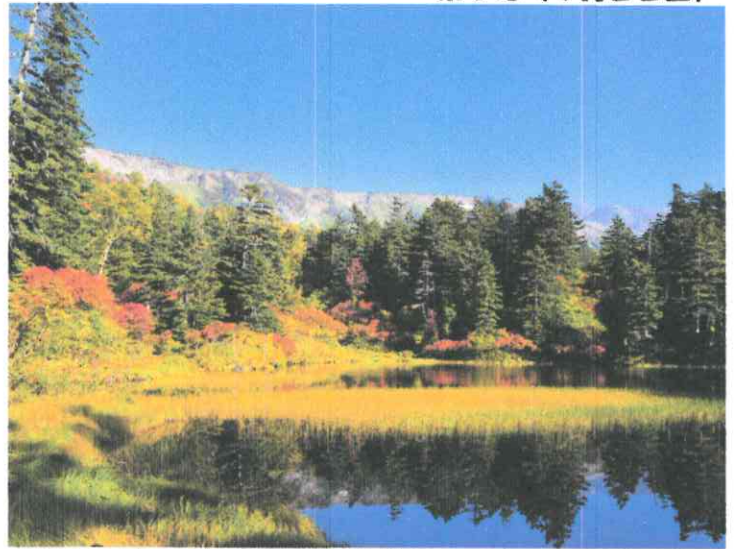
③右コース、ヤンベタツ川(川)沿いの歩道は壊滅し、歩道があったところが川になっています。この為、右コースは閉鎖になります。(8月25日)



④最初に到着する土俵沼です。こごんまりとした沼です。ナナカマドも赤くなってきました。(9月20日)



⑤滝見沼は日に日に彩りの鮮やかさが増していきます。三脚使用のカメラマンの方は他の登山者に配慮してください。(9月21日)



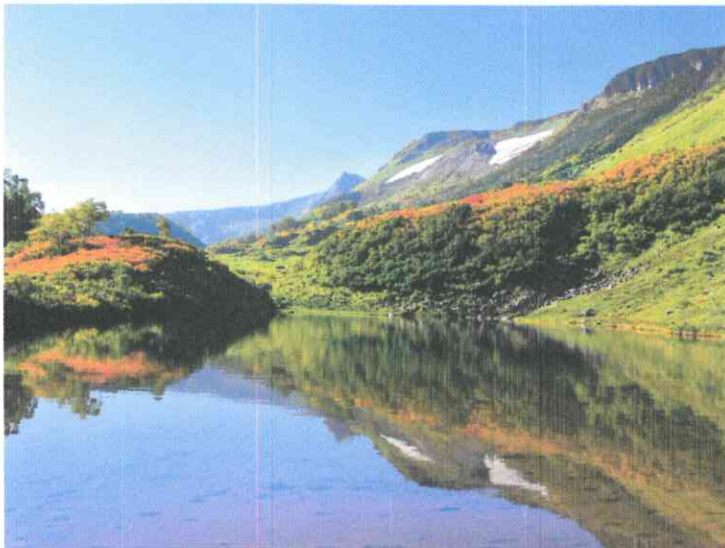
⑥緑沼です。最初の食事休憩ポイントです。ここ以外で食事できる場所は、大学沼、高原沼です。ガスコンロの使用は禁止になっています。(9月21日)



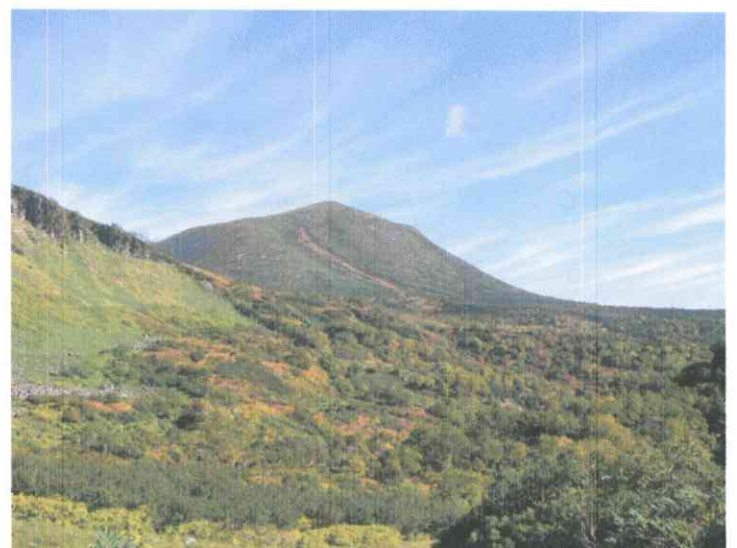
⑦エゾ沼の歩道は大変、狭くなっていますので声を掛け合い、譲り合って通行してください。(9月20日)



⑧式部沼の紅葉はまだこれからといった状況です。白雲避難小屋が見えます。(9月20日)



⑨風いだ日には各沼とも、水面に映る紅葉が彩りを倍増させます。(9月21日)



⑩高原ピークから緑岳を望みます。緑岳の風衝地の赤色はきれいです。また、裾野のウラジロナナカマドの赤も見事です。(9月20日)

2016 高原沼情報

NO. 1
第6号 (8月18日)
発行: ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00~13:00、下山時間15:00までです。
なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで入山届けを記入し、**レクチャー**を受けてから入山してください。
【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



①2年前の雪崩で様相が一変した鴨沼ですが、その姿にも慣れてきました。大学沼上方の斜面も見えるようになり、水面にも映し出されています。(8月13日)



②ミヤマリンドウの白花です。沼コースではエゾコザクラやダイセツトリカブトの白花も目にします。白花を見つけたときには小さな幸せを拾ったような気持ちになります。(8月14日)



③サメビタキの幼鳥です。親と一緒に、梢から梢に飛び移っています。最近、森の中で見かけるサメビタキやヒガラが高原ピークの周りを飛び回っています。(8月13日)



④エゾ沼にオオルリボシヤンマのヤゴを見つけました。成虫になっても肉食で、飛びながら小さな虫を捕まえます。この子も早く羽化して、ヤブ蚊の撃退に貢献してもらいたいです。(8月14日)



⑤山に恩返しという事で、山の日に木道用資材の荷あげ登山が行われました。運搬後、大学沼にてヒグマ観察会が開かれましたが、残念ながらヒグマは藪に入ったままでした。なんとか下山後、駐車場から観察できました。(8月11日)



⑥「雨が降ろうが槍が降ろうが私達は食べるんです。」台風が近づく雨の中、ヒグマの親子は黙々と食事をしていました。沼コースも台風の被害が最小で済みました。大雨の時には川のある沼コースは危険を伴います。(8月17日)



⑦モウセンゴケが、ハエを捕まえていました。食虫植物のこの植物は、葉の先に消化液となる粘液で虫を捕らえ、養分にしています。(8月14日)



⑧高原沼にも遅い春がやってきました。エゾコザクラ、ミヤマキンポウゲ、チシマノキンバイソウ、ハクサンボウフウなど、白、黄色、ピンクの花畑ができました。(8月18日)



⑨温泉が湧いている湯の沼は晩夏の装いです。ミヤマアキノキリンソウがいち早く咲き、エゾオヤマリンドウが咲き始めました。(8月18日)



⑩コショウ(写真右の親)が里帰りです。0歳の子を1頭連れてきます。昨年、姿を現すと期待していた「わっか」が現れず、その代わりにわっかの子のコショウが母親になって帰って来ました。写真左は2009年のわっか親子です。左からコダイ、わっか、コショウです。コショウが1歳の時です。よだれかけのような月の輪は変わっていませんでした。8歳になったコショウは立派な母親になりました。(8月8日)



2016 高原沼情報

NO. 1
第5号 (8月5日)
発行: ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00~13:00、下山時間15:00までです。
なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで入山届けを記入し、**レクチャーを受けてから入山してください。**
【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



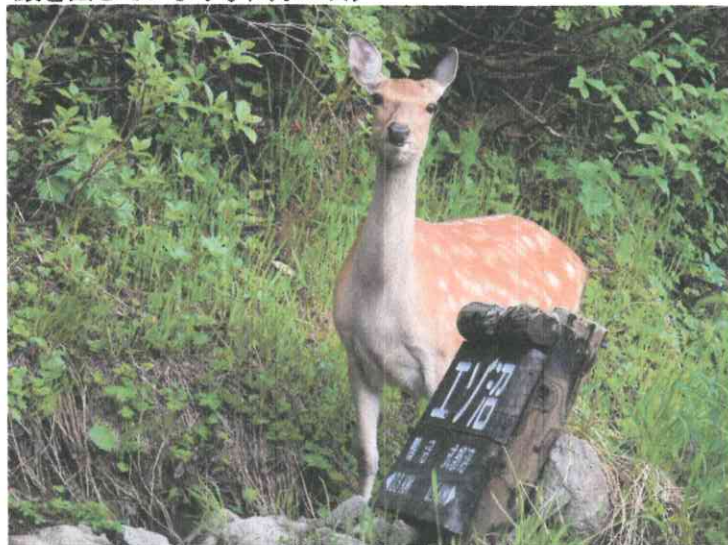
①高原沼も看板が出てきました。沼コースは高原沼から上ったヒグマ監視岩、通称高原ピーク(スタッフ常駐)までの往復コースになっています。これから大きな落石がある可能性があるので頭上には注意してください。(8月4日)



②沼情報では、おなじみのギンリョウソウです。葉緑素を持たない姿は、薄気味悪い幽霊のように見えますが、花好きの人たちには人気の花だったりします。ひっそりと、いくつも顔を出しています。(7月30日)



③湯の沼上の沢沿いの道にダイセツトリカブトが咲き始めました。全草、猛毒ですがその花の姿は雄々しく、見応えのあるものです。ここにはチシマノキンバイソウ、ミヤマキンポウゲも咲いています。(8月4日)



④エゾシカが道をふさいでいました。あまり見かけませんが、足跡はたくさんあるので、たくさん居るのでしょう。しばらく見つめ合っていましたが、イヤそうな顔をして森に入っていきました。(8月1日)



⑤0歳連れの親子クマです。8月にもなり、斜面で目撃した子グマが7月中旬よりも少し大きくなってきているように感じました。立派なクマに成長してほしいですね。(8月2日)



⑥タニマスミレがエゾ沼前後で見頃になっています。大学沼のタニマスミレは雪解け直後で、もうすぐ芽吹きます。今年はスミレファンが少ないような気がします。(8月4日)



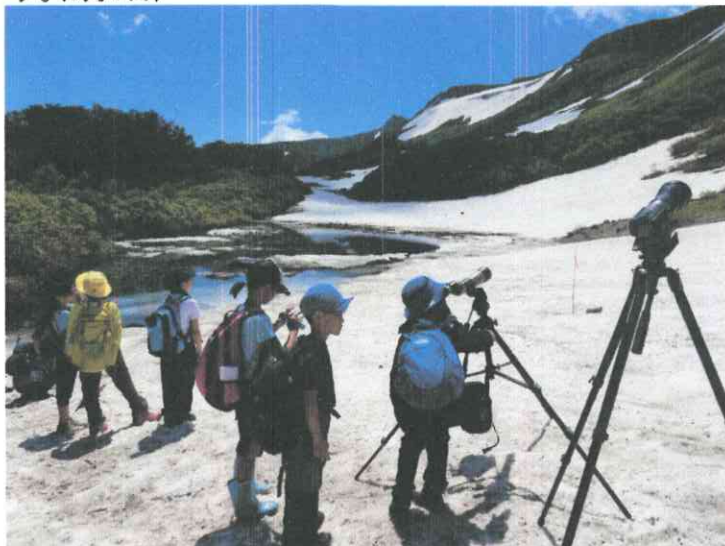
⑦鮮やかなオレンジ色の花が目立つクルマユリです。数は多くはありませんがチラホラと目にします。風車のような葉をしています。(8月3日)



⑧雨の緑沼です。ヌマハリイも水面に彩りを添え、夏本番となっています。ヤブ蚊が多く発生してます。大学沼でもヤブ蚊、ブヨがたかってくることがあります。虫除け対策も必要です。(8月1日)



⑨街中でも良く目にするカワラヒワです。群れが飛び立つときの翼の黄色は見事です。沼コースでは群れは見られず、森の中から森林限界付近で「ジェーイ」とけだるそうな声が聞こえてきます。(7月31日)



⑩岩見沢の小学生たちが大学沼でヒグマを見ることができました。良い夏休みの思い出になると嬉しいです。今年はヒグマを見たいという外国の方も多く沼コースを訪れています。(7月24日)



⑪緑沼から登った所の歩道を横切る沢をヒグマが上流に向かって歩いています。センサーカメラの写真です。この位置からすぐ上流に歩道があります。時刻に注目してください。登山者が歩いている時間帯です。(8月4日)

inell 020℃ ● 08-04-2016 11:58:20

2016 高原沼情報

NO. 1
第4号 (7月22日)
発行: ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00~13:00、下山時間15:00までです。
なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで入山届けを記入し、**レクチャー**を受けてから入山してください。
【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



①「滝見沼」滝が見えるようになりました。



②「緑沼」緑岳、白雲岳が見えます。



③「式部沼」間もなくタニマスミレが咲きます。



④「大学沼」未だ休憩するのは雪の上です。



⑤大学沼上の斜面です。連日、ヒグマの観察ができていますが、これからがヒグマの季節本番です。



⑥高原ピークの住人のシマリリスがコヨウラクツツジの花を食べていました。



⑦いつもせわしなく飛び交っているマヒワが梢に止まりました。



⑧ウラジロナナカマドの花はあちこちで咲いています。紅葉の良し悪しはこの木にかかっています。



⑨地元上川中学校の生徒たちが野外授業で沼コースを訪れました。ヒグマも観察できました。



⑩三笠新道にオスグマが現れました。この後、歩道を横切って森の中に行きました。



⑪大学沼周辺にいた親子2頭が三笠新道近くに移動しました。

【三笠新道の通行止め及び高原沼コースのコース規制について】

7月21日、三笠新道に2組のヒグマを確認しました。この為、7月22日から10月のシーズン終了まで、三笠新道は通行止めとなりました。また、沼巡りコースについても、紅葉シーズンまでは、緑沼経由、高原沼及び大学沼までの往復コースとなりましたので、ご了承ください。

2016 高原沼情報

NO. 1
第3号 (7月19日)
発行：ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00~13:00、下山時間15:00までです。
なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで入山届けを記入し、**レクチャーを受けてから入山してください。**
【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



①大学沼から0歳の子を1頭を連れたクマを観察できました。三笠新道近くに居着くクマがまだ確認されず、三笠新道は通行可能ですがクマの餌場になる草場が広がってきました。通行の可否はセンターで確認してください。(7月16日)



②エゾコザクラが見頃を迎えようとしています。雪田群落の代表的な花で、緑沼周辺には同様のチングルマより大きな群落があります。(7月17日)



③朝、オニヤンマがオオハナウドの葉陰で羽を休めていました。トンボたちも活動を始め、数種類のトンボを見かけるようになりました。(7月12日)



④おなじみの高原ピークのナキウサギです。今年は毎回、左耳の中にオレンジ色の部分がある個体を見かけます。同一個体なのでしょうか、それともナキウサギの特徴なのでしょうか。(7月16日)



⑤残雪が多い大学沼からは未だに緑岳の全貌が望めます。晴天の日には移りゆく雲の流れを観察するのも楽しみです。(7月14日)



⑥高根ヶ原東斜面の名物ウコンウツギの群落です。雪解けの早かった高原沼上の斜面にウコンウツギの花が見頃になっています。大学沼での見頃はこれからです。(7月16日)



⑦オオバミゾホオズキです。沼コースも黄色い花が目立つようになりました。この他、コース全域にあるために長い期間、楽しめるミヤマキンポウゲが咲いています。(7月17日)



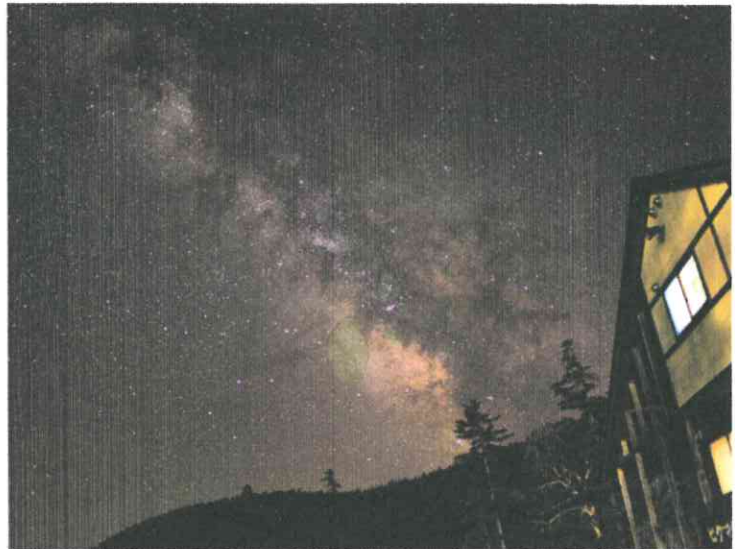
⑧「フィー、フィー、フィーヨ」と優しい声で新緑や芽吹いたばかりの木々の間を渡っているウソです。オスは首周りの赤い、身近な野鳥です。(7月16日)



⑨タニギキョウです。とても小さく、目立たない花です。センター近くの歩道脇に小さな群落を作っています。今年は花のつきが良いようです。(7月14日)



⑩斜面上部の雪が解け、これからが落石が多くなる季節です。7月8日には70cm大の石が落ち、大学高原沼間の歩道を横切りました。以前、軽自動車大の岩が落ちてきたこともあるので注意して通行してください。(7月8日)



⑪山岳の楽しみ方の一つです。思わず、あの有名な歌を口ずさみたくなるような満天の星空です。(7月6日)

2016 高原沼情報

NO. 1
第2号 (7月6日)
発行：ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

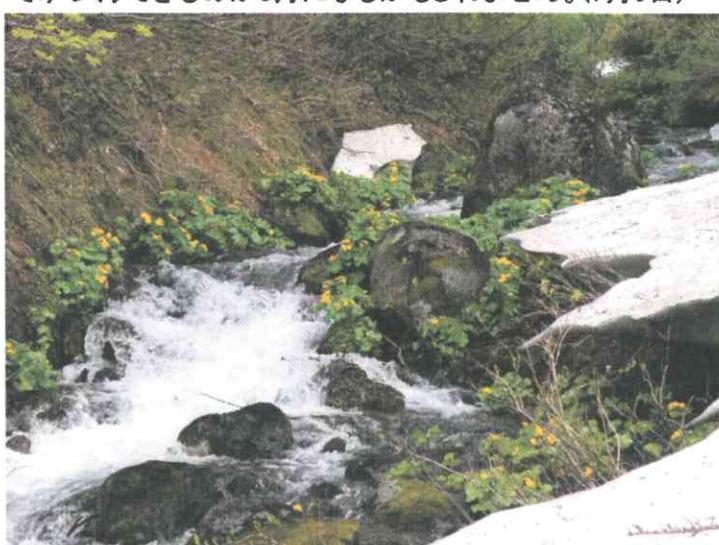
入山受付7:00~13:00、下山時間15:00までです。
なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで入山届けを記入し、**レクチャー**を受けてから入山してください。
【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



①大学沼です。手前の黒みがかった雪は雪崩た雪が堆積して大学沼の広場を覆い尽くしています。例年、7月5日時点で3m程の積雪がありますが今年はそれ以上でベンチでゆっくりできるのが8月になるかもしれません。(7月5日)



②アカエゾマツの雄花です。雨に濡れ、緑の中に色鮮やかに見え、目立ちます。とは故、じっくり見ているうちに虫の集団にも見えてきました。(7月4日)



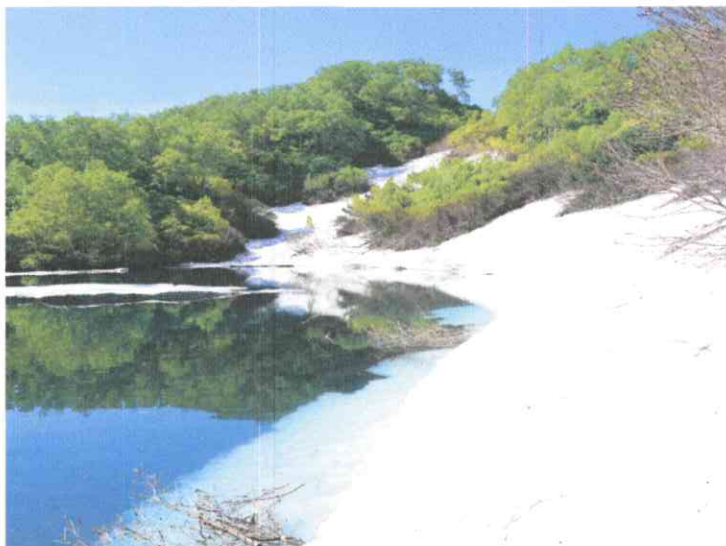
③黒の沢のエゾリュウキンカが見頃を迎えようとしています。毎年シカの被害にあう場所ですが今の所、まだ一株くらいしか食べられていません。花に残雪、水の流れありときれいです。(7月6日)



④雨中の右コースの渡渉箇所です。融雪期には川は増水しますが、加えて雨が降れば、川底に踏み石があるのですがそれも見えなくなり、より危険な渡渉になります。このすぐ下の渡渉も流れが強く、要注意です。(7月3日)



⑤高根斜面から下りてきたキタキツネがマーキング用の笹のにおいを確かめていました。数年前に同じようなことをしたヒグマがいました。(6月30日)



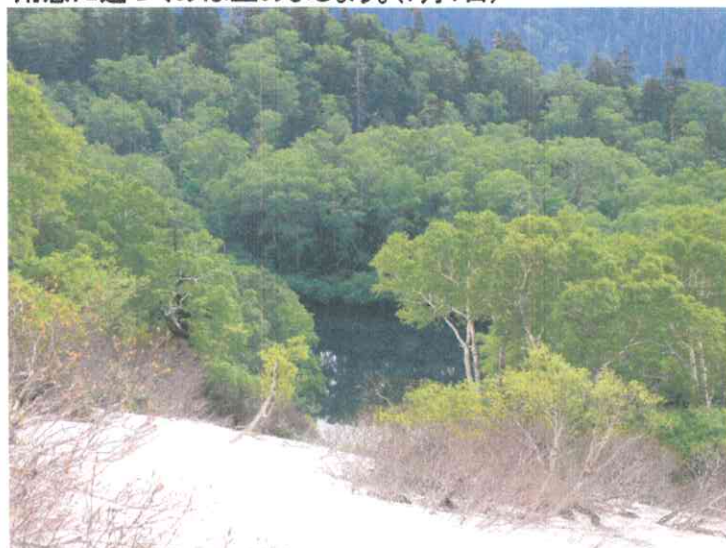
⑥⑦エゾ沼と空沼です。両沼とも、沼の縁の残雪上を歩きますが、沼の入り口の歩道が出てき始めました。もう間もなく増水した沼の中をジャブジャブと歩くようになります。これから歩道が沢状態になる場所も出てきて、沼コースは雪の世界から水の世界へと移り変わってゆきます。(7月5日)



⑧まだ氷に覆われた高原沼です。氷の隙間に物差しをさして水深を測ってみると2m98cmありました。この後、穴に近づきすぎたために氷が割れて沼に落ちてしまいました。不用意に近づくのは止めましょう。(7月1日)



⑨声はすれども姿が見られないウグイスです。ヒグマがなかなか姿を現さず、高原ピークで日がな一日過ごしているとこんな珍客も現れます。(7月2日)



⑩大学沼から高原沼に上る途中から見下ろすと淵無し沼が見えます。手前の雪が溶けると低木の葉が生い茂り、なかなか気づきにくくなります。(7月6日)



⑪高根斜面を駆け下りるヒグマです。現在、高根斜面でのヒグマの個体確認はこのクマだけです。高根ヶ原から下りてきて、また戻ってゆきました。コース規制、三笠新道の規制はヒグマ次第なのでセンターで確認してください。(6月29日)

2016 高原沼情報

NO. 1
第1号(6月25日)
発行: ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00~13:00、下山時間15:00までです。
なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで入山届けを記入し、**レクチャー**を受けてから入山してください。
【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



①バショウ沼です。コースの積雪は例年並みで、現在、森を抜けるとほぼ雪に覆われています。雪解けも進んでいますので雪の踏み抜き等、注意してください。(6月24日)



②ショウコノ沢の橋には倒木があり、対岸の階段は地盤がもろいので気をつけてください。また、森の中には木に寄りかかった倒木があるので頭上注意です。どちらも看板を掲示しています。(6月24日)



③ホシガラスです。高原温泉でこんな可愛いホシガラスが見られて感動しました。ちなみに僕(新人スタッフ)は初めて見ました。(6月21日)



④森の中ではいち早くショウジョウバカマが咲き、湿地にはミズバショウが咲き始めます。これから続々と見頃を迎えるミズバショウが見られます。(6月22日)



⑤毎年この時期には三笠フィーバーが起こるのですが最近天候が悪く、ガスがかかって登山者も少ないです。6月25日現在、ヒグマの痕跡は見つかっていません。三笠新道は通行可能ですがセンターで確認してください。(6月24日)



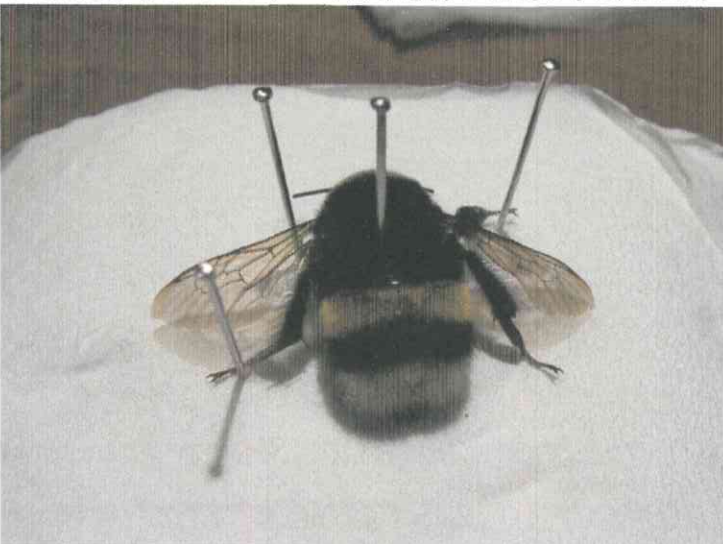
⑥久方振りに雪壁温泉にその名の通り、立派な雪壁ができました。歩道にはこの雪壁を下る事になりますので気をつけてください。(6月24日)



⑦ヤンベ温泉展望台からの眺めです。手前のもくもと水蒸気がわき出ている噴気口はつい先日できたものです。中州の木々の葉が白くなっています。対岸の温泉は12年前にできたものです。(6月24日)



⑧⑨右(南)コースのヤンベタツ川沿いはすでに雪はなく、フキも大きく葉を広げ、植物が繁茂しています。花も多く見られます。エゾエンゴサク、キバナノコマノツメ(写真左)、エゾイワハタザオ(写真右)等が咲いています。ただし、ここは現在のコース中でヒグマの食べ物が豊富にある場所です。また、川を渡渉する箇所があります。融雪期には川は気温、天候により増水しますのでセンターで情報を得てください。(6月22日)



⑩⑪6月19日に高原温泉で外来種のセイヨウオオマルハナバチが発見されました。とうとう高原温泉までやってきたかという感じです。また、昨年の10月7日にはコース内、センターから400mの霜の降りた木道にアライグマの足跡がついていました。外来種の動植物は在来種の生息、生育を脅かすものが多く、このような外来種を目撃したらセンターに一報ください。